

no.388

04

2026.04.1

発行：みなと元町タウン協議会 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通 3-13-1 協和会館内  
 発行人：片山泰造 編集人：平松日出雄 電話・FAX:078-391-0831 表紙写真：中多英二

季刊

みなと元町

タウンニュース

TOWN NEWS

おっ！散歩

-街角川柳とエッセイ-

ベニスモモ  
 平和の祈り込めて咲く

詠人 喜康

街路樹って、やっぱりいいな！

いつ、やってくるのだろうか、と待ち侘びた春。

コートやマフラーに顔をうずめて、風を避けながら下を向いて歩いた季節は過ぎた。

なんてこと、ふと顔を上げたその先の、其処彼処の木々には、ぷっくりと健気な蕾が、つぼみが、咲く準備を始めていた。

街路樹が、そこにあることさえ、気に留めることさえしないうちに、ごめんなさい、。

鯉川筋には、白いコブシが。マリンロードには、紅モクレンが。幹線沿いの植え込みには、ベニスモモが咲きましたよ。

咲いてますよ。

今まで、気がつかなかったこと、ゴメンナサイ、。

潮崎孝代

# 能登半島地震から3度目の春、 東日本大震災から15年の春

合資会社ゼンクリエイト 根津昌彦

2026年3月7日(土)の午後、元町1番街商店街スケッチャーズ前で、兵庫県合唱連盟主催、みなと元町タウン協議会・元町1番街商店街振興組合共催で、恒例のPRAY FROM KOBE街頭コンサートを開催した。私は、兵庫県合唱連盟副理事長の役を仰せつかっており、ここ8年ほどは毎年元町商店街での街頭コンサートの責任者を務めている。

私たちが31年前に阪神・淡路大震災により被災し、多くの方々が避難所や仮設住宅での長期間にわたる生活を余儀なくされていた時に、全国からたくさんの合唱団が歌でエールを送ろうと神戸、阪神間のいろいろな場所を訪れてくれて、たくさんの歌を届けてくれた。あの時どれほど多くの方が、合唱仲間の歌声に涙し、また前向きに歩むことができたか。そんな感謝の気持ち、恩返しという思いから、東日本大震災の翌年の2012年3月から毎年、宮城県の合唱仲間と一緒に、神戸から被災地に歌声でエールをというスローガンのもと、PRAY FROM KOBE～神戸からの祈り～というタイトルの復興支援コンサート行ってきた。

今年は11の合唱団がエントリーし、それぞれに思いのこもった歌を披露し、通りゆく来街者の方も歌声に足を止め、耳を傾けていただいた。また、今年も歌の合間に能登半島地震・豪雨により被災した方々に思いを寄せ、被災地での合唱活動の復興にも役立てていただきたいと、支援金の募金活動も行った。今年は例年にも増して多くの方々の浄財を頂戴し、約37万円の支援金が集まったので、石川県合唱連盟に近日送金させていただく予定である。東日本大震災から15年、3.11を4日後に控えたタイミングでもあったので、サンテレビによる取材もあり、当日現地で聞いてくださった皆さんだけでなく、当日の夜のニュースで私たちの活動を目にくださった方もきっと多かったのではないだろうか。



元町1番街街頭コンサートの様子  
 (サンテレビニュースより転載)



元町1番街街頭コンサートの様子（サンテレビニュースより転載）

今年1月、神戸文化大ホールで開催したPRAY FROM KOBEメインコンサートで共演した宮城県合唱連盟副理事長の早川幹雄さんから、嬉しい知らせを聞かせていただいた。宮城県の大学合唱団の複数の団体が集まり、「新七声会」という学生合唱団体の連合体をつくり、その第1回定期演奏会が2026年3月31日に仙台市内のホールにて行われるという。

以下、新七声会のホームページに掲載されている団体紹介を転載する。



東日本大震災以降のこの15年間、日本全国でほぼ毎年のように大地震や豪雨・土砂災害といった天災に見舞われ、多くの尊い命が奪われている。本当に悲しくも悔しくもあるが、家族を失い家も仕事も無くなってしまった現実を受け止めながら毎日を必死に生きている方々はなくなった命よりも何倍何十倍もおられる。

私たちが31年前の実体験を忘れることなくこれまで暮らしてきたわけだが、辛いこと悲しいことだけではなく、嬉しいこと楽しいことによって心が満たされることもまた数多く経験してきた。明るい未来を願って自分の心を鼓舞して前を向いて歩みを進め、安らぎの時間によって心身を整えながら、明日への活力を満たしていく。この繰り返し、当たり前の毎日を大切に生きていくことが心の復興ということなんだらうと思っている。



元町1番街街頭コンサートの様子（サンテレビニュースより転載）

『「新七声会」という名前は、1959年に発足し、1988年ごろまで存在した「(旧)七声会」に由来しており、実際の大学数・団体数を問いません。「旧七声会」は、在仙大学合唱連盟として、ピーク時には9大学12団体600名の規模を誇る巨大な連合体でした。あの超有名アーティストも定期演奏会のステージに立ったといわれています。晩年、組織としては発展的解消を遂げたとされ、2010年代には、「在仙交流会」等の名前で、定期演奏会のチケット交歓会や花見、飲み会などのイベントが細々と残されていました。2020年前後に世界中を襲ったコロナ・パンデミックにより、宮城県のみならず、日本中の大学合唱団は存続の危機に陥りました。辛くも耐えたもの、廃部となったもの、そして、再び息を吹き返して活動を再開したものもありました。2025年、新七声会は、コロナ禍を経て再び活気を取り戻した合唱勢力を火種に、仙台、宮城から若人の合唱文化を再興し、(中略)発足しました。』

3月31日、神戸空港から仙台空港へと飛び、心の復興が進んでいる宮城県の若人たちの今を確かめてこようと思う。

新七声会の第1回定期演奏会のチラシ

## 元町みなと通信 file.8

### 地域とともに。地域相談役のメンバー募集

元栄海地区民生委員児童委員協議会 片山泰造

元町通・栄町通・海岸通の1丁目から6丁目地区を担当しております神戸市中央区民生委員・児童委員の元栄海地区代表を務めております片山泰造でございます。

この度みなと元町タウンニュースの誌面を拝借し、当地区の民生委員・児童委員のメンバーを募ります。

「安心・安全・暮らしやすい・働きやすい」みなと元町タウン協議会の基本ですが、この地域で暮らす高齢者や子どもの身近な相談役・支援者となる、民生委員・児童委員、民生委員支援員のメンバーを募っています。住民の立場に立ち、誠意を持って活動ができる方(18歳以上市内在住・在勤・在学のかた)ボランティアとして地域福祉の担い手になってみませんか。活動は地域住民の相談・見守り・行政への橋渡しです。ボランティアで無報酬ですが、活動に必要な交通費・通信費等の実費は支給されます。「地域のために何かしたい」「より良い街にしたい」という思いを持った方はぜひメンバーをお願いいたします。

詳しくは下記へご連絡ください。

元栄海地区民生委員児童委員協議会  
片山泰造 090-7766-2399



## 地域の建築を社会で支える — 神戸歴史遺産

村上隆行 eu 建築設計代表／一級建築士／（一財）淡河宿本陣跡保存会代表理事

去る二月十一日、私が活動拠点としている神戸市北区淡河町で「ぶるっと淡河」が開催されました。地元住民が企画・主催する地域周遊型のスタンプラリーで、自然や文化、食を通して淡河の魅力を体感してもらう催しです。秋には「ぐるっと淡河」も行われ、年々スタンプ会場は増えています。

その背景にあるのが、歴史ある建物の再生です。たとえば茅葺屋根を修復した南僧尾観音堂や北僧尾農村歌舞伎舞台、旧前田家住宅（はなとね）といった指定文化財があり、一方で淡河宿本陣跡や旧小西家住宅（danna-pan）のように、指定はないものの数百年の歴史をもち、建築的価値の高い建物がレストランやパン屋さんとして活用されています。さらにはどこにでもあるような古民家や納屋を改修したカフェやシェアスペースも増えてきました。

これらの多くは、かつて長い間使われず、地域の中で静かに時を重ねてきた建物でした。しかし再生され、イベントにも利用されることで、人が集い、学び、楽しむ場へと生まれ変わっています。いまや地域のシンボルであり、観光資源であり、子どもたちの社会見学の場にもなっています。

とはいえ、歴史ある建物を所有者だけの努力で守り続けるのは容易ではありません。特に文化財指定のない建物は、修繕費の負担も大きく、制度的支援も限られます。淡河町は地域の力で踏ん張っていますが、それだけでは支えきれない現実もあります。

そこで重要になるのが、「神戸歴史遺産」の取り組みです。これは、文化財指定の有無にかかわらず、市民が次世代へ継承したいと考える歴史ある建物などを神戸市が「神戸歴史遺産」と認定し、その保存活用を後押しす

る制度です。行政だけで価値を決めるのではなく、市民の思いをすくい上げ、クラウドファンディングなどを通じ、社会全体で守り育てていこうとする点に特徴があります。淡河町の旧松森医院本医院棟（ヌフ松森医院）も認定を受け、地域交流拠点として新たな命を吹き込まれました。

建物は、使われてこそ生き続けます。手を入れ、役割を更新しながら時間を重ねることで、風景の一部として次の世代へ受け継がれていきます。そして、その存続を左右するのは所有者だけではなく、私たち一人ひとりの選択でもあります。支える枠組みを知り、関わることでその未来を決めていく。そうした循環を社会の仕組みとして後押しする手立てとして、「神戸歴史遺産」には大きな意義があると感じています。



「ぶるっと淡河」の様子（淡河宿本陣跡）



昨年葺き替えられた「はなとね」の茅葺き屋根



神戸歴史遺産の旧松森医院本医院棟



特別展  
「小泉八雲  
—怪談とフォークロリスのまなざし—」

会場:大阪歴史博物館 6階 特別展示室  
〒540-0008 大阪市中央区大手前4-1-32

会期:2026年4月11日(土)～6月8日(月)

開館時間:9:30～17:00 \*入館は閉館30分前まで

休館日 :火曜日  
[ただし、5月5日(火・祝)は開館]

神戸時代の小泉八雲 大阪歴史博物館保管



西洋絵画400年の旅  
—珠玉の東京富士美術館コレクション—

会場:京都市京セラ美術館 本館 北回廊1階

会期:2026年3月20日(金・祝)～5月24日(日)

開館時間:10:00～18:00\*入館は閉場の30分前まで

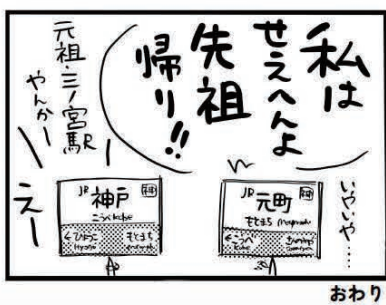
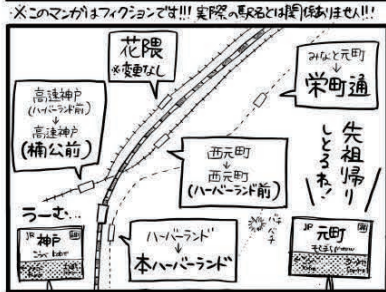
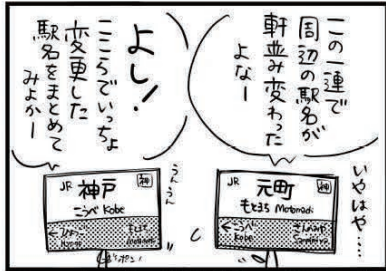
休館日 :月曜日  
[ただし5月4日(月・祝)は開館]

ポール・セザンヌ《オーヴェールの曲がり道》  
1873年頃 油彩・カンヴァス

読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。到着順でペア招待券をお送りします！

# 次は～ 駅名ちゃん!



本欄は今号で終了いたします。長年のご愛読ありがとうございました。

## クリーン作戦

### 栄町通クリーン作戦

毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



左から  
1月9日、2月13日、  
3月13日

#### 参加企業

神明倉庫(株)、新光明飾(株)、兵庫県信用組合、広島銀行、佐野運輸(株)、佐田野不動産(株)、(株)神明ホールディングス、こうべまちづくり会館、

### ハーバーロードクリーン作戦

エスタシオン・デ・神戸



左から  
1月7日7名  
2月9日7名  
3月16日7名

## お知らせ



新会員のご紹介  
久保田セメント工業(株) (神戸市中央区港島南町3丁目3-4)  
※右の写真は本社 (HPより引用)

お詫びと訂正  
前号の元町みなと通信 file.7「JR元町駅バリアフリー工事について」において、1934年(昭和11年)は、(昭和9年)です。

## 元町みなと通信 file.9

### 「神戸元町誕生150年事業実行委員会」閉会式を終えて

神戸元町商店街連合会の事務局長退任の日に 中多英二

令和6年の元町誕生150年を迎えるにあたり、その前年の7月に行政の各局長さんや久元神戸市長さん達にも参加頂き「神戸元町誕生150年事業実行委員会」を立ち上げました。あれから3年経ち、この3月16日に市長さんを含め30人程がホテルオークラの最上階の部屋で、神戸港を見下ろしながら同委員会の閉会式を行いました。

3年を務めあげた畑委員長は、その挨拶で総事業費7,000万円かけた3年間の実施事業を振り返り、本当にやりとげられるのか不安だったと本音を吐露し、これら事業を企画実行してきた若手の企画委員の皆さんを高く評価した。そして、この3年間の記念事業の最大の成果は、商店街の次代を担う人材が発掘されたことだと断言した。



一方、久元市長は明治7年の神田県令による「元町通」の布告という元町誕生の歴史に触れ、その長い歴史のなかで育まれてきた街の物語としての個性が元町には匂いとして感じられると、神戸の宝として評価して頂いた。

この閉会式に配布された150年の記念誌「つむぐ」も、編集業務のプロに依頼するのではなく、3年間記念事業に関わった組合員たちの手づくりによって制作された。従って、そこには行き届かない部分もあるのかも知れませんが、自分たちで編集していこうとした若手の皆さんの姿勢を評価したい。行政や関係機関の皆さんの支えもありましたが、最後の締めくくりに記念誌編纂を含め、商売という仕事を抱えて3年間にわたり150年記念事業に取り組んでこられた元町商店街の皆さんに敬意を表します。